



TITLE:

先天性皮膚肉腫症ノ1例

AUTHOR(S):

李, 應洌; 松山, 信夫

CITATION:

李, 應洌 ...[et al]. 先天性皮膚肉腫症ノ1例. 日本外科宝函 1941, 18(1): 234-239

ISSUE DATE:

1941-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205230>

RIGHT:

先天性皮膚肉腫症ノ1例

セブランス聯合醫學專門學校病理學教室(主任 尹日善教授)・

李 應 洵

セブランス聯合醫學專門學校外科學教室(主任 高秉幹教授)

松 山 信 夫

Case Report of Infantile Congenital Skin Sarcomatosis.

By

Oretu Lee

[Department of Pathology, Severance Union Medical College, Keijo, Chosen, Japan
(Prof. Dr. N. Z. In)]

Nobuo Matuyama

[Department of Surgery, Severance Union Medical College, Keijo, Chosen, Japan
(Prof. Dr. H. K. Koh)]

Malignant tumours in infants or children usually originate from the connective tissue of the mesodermal system. While sarcoma simplex at this age is constantly found in our reports, sarcoma multiformis at this age is very rare. Moreover multiple sarcomatosis in the foetus or in infants is still more rare in literature.

Steffen collected cases of tumours in infant, among which twenty five cases were congenital sarcoma, and only three of them were skin sarcomatosis. *Schlosmann* and *Seekel* reported some embryonic skin sarcomatosis. *Kuriyama* found skin sarcomatosis in an infant of fifty days, while *Nakao* found the same kind of tumour in a seven months old baby.

We here report a similar case in a five months old female baby in which multiple sarcomatous foci were found all over the skin, and it is supposed that the primary focus was on the right lower leg.

In this tumour, the histological study shows the tumour localized in the subcutaneous network tissue, mostly composed of large round sarcoma cells, which give the impression of what *Perrin* reported in 1886, namely the Hydrodermal Form. In this case, the sarcomatosis was in eleven places with uniform symptoms of hard mass, no pain and no pigment found.

Despite the fact that the growth of the tumours in our case was very rapid, the general health was good, and the baby well nourished.

The family reported that the baby died of some acute febrile condition about a month after being discharged from the hospital.

(Author's abstract)

目	次
緒 論	結 論
第1章 臨床の所見	主要参考文献
第2章 剔出腫瘍ノ病理組織學的所見	附圖説明
第3章 考 按	

緒 論

乳兒, 幼兒ニ發生スル惡性腫瘍ハ統計上, 中胚葉發生ノ結締組織ヨリ發スルモノ多キハ一般ノ認ムル所ナリ。單發性肉腫ニ關スル報告ハ枚舉ニ遑ナシト雖モ, 多發性皮膚肉腫症ノ報告ニ至リテハソノ症例左程多キモノニ非ズ。就中, 胎生時並ビニ乳兒ニ於ケル多發性皮膚肉腫症ニ至リテハ更ニソノ例數少シ。Steffen⁴⁾ハ多數ノ幼兒腫瘍統計中, 僅カニ25例ガ先天性肉腫ニシテ, 此ノ中皮膚肉腫症ハ3例ニ過ギザルヲ指摘セリ。Schlossmann²⁾, Seckel¹⁾ハ胎生の皮膚肉腫症ヲ報告シ, 栗山¹²⁾ハ50日ノ乳兒ニ於テ, 中尾¹³⁾ハ7箇月ノ乳兒ニ於ケル皮膚肉腫症ヲ報告シタルヲ見ル。

余等ハ生後5箇月ノ乳女兒ニ於ケル皮膚肉腫症ノ1例ヲ報告セントス。

第1章 臨床的所見

患 者 宋○仁, ♀, 生後5箇月。

初 診 昭和14年1月12日。

家族歴 特記スベキ事項ナク, 腫瘍ニ對スル遺傳ヲモ證明シ得ズ。

既往歴 正常ノ分娩ニヨリ出産シ, 今日マデ順調ナル發育ヲ遂ゲ來レリ。

現病歴 患者ノ出産スルヤ産湯使用時, 産婆左側下腿後面ニ於テ, 栗大ノ硬結2箇相合スルガ如キ狀ヲナシテ皮下ニ存在シ, ソノ部分ノ皮膚ハ稍々赤色ヲ帶ビタルニ氣付キタリ(第1腫瘍)。更ニ, 分娩後1週ニシテ左側下腿後面ニ於ケルト同様ナル腫瘍ガ右側頸部後側面ニ現ハレ來ルヤ, 第1腫瘍ハ日ト共ニ増大ノ傾向ヲ示シタリ。

然ルニ, 來院前ノ15日ニシテ, 右側腰背部ニ栗大ノ腫瘍(第3腫瘍)現ハルルヤ, 突然全身ニ此ト同様ナル腫瘍無數ニ發生シ來レルタメ, 外科教室ノ外來ヲ訪ルルニ至リタリ。今日マデ患者ハ此等ノ腫瘍ノ爲メ, 何等發育狀態ニ異常ヲ呈セシコトナク, 且ツ夜間啼泣, 咳嗽, 盜汗ノ如キ症候ヲモ認メザリキト。

現 症 身長63.0 cm., 體重7.59 kg., 胸圍41.5 cm.。

全身所見 發育並ビニ榮養共ニ佳良ニシテ, 皮下脂肪組織良ク發育セリ。胸部ニ於ケル理學的所見陰性ニシテ, 腹部ニ於テハ肝臟ノ下緣右側季肋部ヨリ下方一橫指乳線上ニテ觸知サルルノミニテ異常ヲ認メズ。運動頗ル活潑ニシテ, 全身ニ於テ畸形ヲ認メズ。

局所ノ所見 第1腫瘍(No. 1) 7.7×6.5 cm: 左側下腿後面膝蓋關節下部ヨリ下腿ノ下方1/3ニ亙リテ雞卵大ノ半球狀ノ腫物アリ。該部ノ皮膚ニ於テ色素沈着ナキモ, 皮下靜脈著明ニ怒張

シ、輕度ノ熱感アリ。腫物ノ境界ハ割合ニ明確ニシテ、硬度軟ニシテ皮膚トハ癒着セザリシモ、基底面ハ下腿骨部ト癒着シタルヲ見ル。

第2腫瘍 (No. 2) 5.0×2.8 cm. : 右側後頸部ニ於テ、鳩卵大ノ腫瘍アリ。皮膚トハ堅ク癒着ヲ營ミ、皮膚毛細管怒張シ、且此ガ基底部モ癒着ヲ營メリ。

第3腫瘍 (No. 3) 5.0×5.0 cm. : 右側ノ腰背部ニテ、正中線ヨリ約2 cm 離レタル第10胸椎上ニ雞卵大ノ腫瘍アリ。

第4腫瘍 (No. 4) 3.3×1.5 cm : 右側背胸部、肩胛骨ノ下端ニ相當シ栗大ノ腫瘍アリ。

第5腫瘍 (No. 5) 3.3×1.2 cm : 左側背胸部、肩胛骨ノ下端ヨリ約3 cm 下方ニアリ。

第6腫瘍 (No. 6) 5.0×2.5 cm : 右側腋窩部ニアリ。

第7腫瘍 (No. 7) 3.7×3.5 cm : 左側前胸部ニ於テ、腋窩部ニ偏シタル部ニアリ。

第8腫瘍 (No. 8) 2.9×2.2 cm : 左側腋窩部ニアリ。

第9腫瘍 (No. 9) 2.2×1.8 cm : 左側鼠蹊部ニアリ。

第10腫瘍 (No. 10) 1.5×1.0 cm : 右側大腿骨前面中央ニアリ。

第11腫瘍 (No. 11) 1.8×1.0 cm : 第10腫瘍ヨリ下方約3 cm ノ所ニアリ。

レントゲン所見 肺、消化器系統ニ病的陰影ヲ認メ得ズ。箇々ノ腫瘍ハ皮下ニ於テ、周圍ノ骨膜、骨組織トハ比較的明確ニ區別セラレタル陰影トシテ認メラレタリ。原發性腫瘍ト思ハル第1腫瘍 (No. 1) ヲ見ルニ、腫瘍體ハ皮膚ト骨組織トノ間ニ有スル境界明瞭ナル陰影トシテ現レタリ。

臨床検査所見 血液: Wasserman 氏反應, Kahn 氏反應, 村田氏反應共ニ陰性, 赤血球 3,150,000, 白血球 11,800, 多核白血球 62.0%, 小淋巴球 35.0%, 大淋巴球 1.0%, 「エオジン」嗜好性白血球 2.0%。

尿: 黃褐色ニシテ、透明, 酸性ヲ呈ス。糖, 蛋白, 膽汁反應共ニ陰性, 「ヂアゾ」反應陰性。

大 便: 黃色, 寄生蟲卵ヲ認メズ。

皮 膚: マントー氏反應, ビルケー氏反應トモニ陰性。

以上ノ如キ臨床的所見ヨリ診斷ヲ多發性皮膚肉腫症ト想定シ、來院3日目ニ腫瘍摘出術ヲナシタリ。

手術所見及經過 豫後不良ナルコトヲ患者ノ兩親ニ告ゲ、原發竈ト思ハル第1腫瘍部 (No. 1) ヲハ唯標本作成ノ目的ニテ1小片ノミヲ、他ノ10箇ノ腫瘍ヲバ全剔出ヲナシタリ。

手術後經過良好ニシテ、術後9日目ニ退院シタリ。然ルニ術後1箇月ニシテ原因不明ノ病ニテ急死シタリ。

第2章 剔出腫瘍ノ病理組織學的所見

肉眼的所見 第2腫瘍ヨリ第11腫瘍ニ至ル一般的肉眼所見ヲ總括スルニ、腫瘍體ノ外面ハ稍々赤黃色ヲ呈シ、周圍組織トハ境界明確ナラズ。腫瘍體ヲ切開シ剖面ヲ見ルニ黃灰白色乃至黃

灰白色ヲナシ、或ルモノニ於テハ陳舊性出血竈ヲ思ハシムル赤褐色ノ斑點ヲ認メタリ。

組織學的所見 表皮ニハ變化ナク、乳頭層ニ相當シ血管ヲ中心トシテ圓形細胞ノ浸潤アリ。
七ノ層以下筋層ニ至ルマデノ真皮層ニ於テ結締織ノ緻密ナル網眼中ニ腫瘍細胞密在スルヲ認ム。

腫瘍實質細胞ハ著シク大サヲ異ニシ、ソノ排列モ不規則ニシテ、且ツ橢圓形或ハ長橢圓形ヲトセル胞體中ニ中等度ノ「クロマチン」ヲ含ム圓形、橢圓形ノ核ヲ容レタルモノヨリ成ル。

此等ノ腫瘍細胞間ニハ結締織ノ微細ナル纖維アリテ、細胞ヲ圍繞シタルヲ見ル。腫瘍實質細胞ノ多クノモノニ於テ、「ミトーゼ」ノ像ヲ呈シ、「クロモソーム」ニ金米糖狀ニ排列シタルモノヲ散見ス。腫瘍中心部ニ於テハ、「エオジン」ニ濃染セル部アリテ、實質細胞ノ著シク膨化シ核ノ融解ヲ來セルモノ多ク、或ルモノニ於テハ核ノ殘骸ヲ容レテ壞死ノ像ヲ呈シタリ。間質ハ旺盛ナル腫瘍細胞ノ増殖ニヨリテ壓迫萎縮サレ、硝子樣變性ニ陷レルモノスラアリ。腫瘍細胞群ノ間質ニハ新生血管多數ニアリテ中ニ腫瘍細胞ヲ容レタルヲ見ル。

斯ノ如キ腫瘍ノ周縁ハ薄キ結締織ノ膜ノ圍繞セルヲ見、皮下筋層ハ著變ヲ認メザルモ、少數ノ圓形細胞浸潤ト輕度ノ浮腫ヲ認ム。

以上ノ所見ハ前記第1腫瘍ヨリ第11腫瘍ニ至ル總括的所見ナルモ、第1腫瘍(No. 1)ニ於テハ、中心部ニアリテ、廣キ範圍ノ組織壞死ヲ見ルト共ニ、小出血竈ヲ見受ケタリ。以上ノ組織象ヨリ考フルニ、本腫瘍ハ皮下網狀織ヨリ發生シタル大圓形細胞肉腫ト云フベシ。

第3章 考 按

1905年、Steffen⁴⁾ハ小兒ニ於ケル惡性腫瘍ノ統計的觀察ヨリ小兒ニ肉腫多キヲ説キ、ソノ中ニ僅カニ3例ノ先天性皮膚肉腫症ヲ報告シタルヲ見ル。

然レドモ、肉腫殊ニ皮膚肉腫症ガ比較的壯年期、或ハ其以後ノ年齡ニ於テ頻發スルハ一般臨牀家ノ等シク認ムル所ニシテ、且ツ此ノ兒科領域ニ於テ遭遇スルコトノ稀ナルハ先進諸家並ビニ余等ノ文獻蒐集ヨリ見テ明カナル事實ナリ。

乳兒並ビニ幼兒ニ於ケル皮膚肉腫症ニ關スル報告ハソノ數少シ。即チ、Schlossmann²⁾ハ分娩後3時間ニシテ死亡セル乳男兒ニ於ケル先天性皮膚肉腫症ヲ、Seckel¹⁾ハ偶然ナル機會ヨリ1.5 cmノ直徑ヲ持チ唯顯微鏡的ニノミ證明シ得タル先天性皮膚肉腫症ヲ報告シタリ。Neuhaus³⁾ハ生後2箇月ノ乳兒ニ於ケル1症例ヲ記載シタルアリ。

本邦ニ於ケル本症例ノ文獻ヲ繙クニ、村上²⁰⁾、唐木¹⁵⁾、石橋¹⁶⁾、小島¹⁷⁾、藤浪¹⁸⁾等ヲ始メ多數ノ學者ガ壯年、或ハ其以後ノ年齡ニ於テノ皮膚肉腫症ヲ報告シタリ。

然レドモ、兒科領域ニ於ケル本症例ノ報告ハ極メテ寥寥タルヲ免レズ。即チ、下ニ記載セルニ如ク、僅々8例ニ過ギズ。今本症例ヲ合シテ僅カニ9例ニ過ギザルノ狀ナリ。

即チ、栗山、小柳¹²⁾ハ生後51日ノ男子ニ發生シタルスビーグレル氏ノ皮膚肉腫症ヲ報告シ、田¹⁹⁾ハ生後4箇月ノ乳男兒ニ發生シタル淋巴肉腫症ヲ記載シタリ。藤浪¹⁸⁾ハ生後6箇月ノ男子、2箇年ノ女兒ニ發生シタル圓形細胞性皮膚肉腫症ノ2例報告アリ。栗山、宮崎²²⁾ハ生後10

箇月ノ乳男兒ニ於テ、左側ノ顔面麻痺ヲ來シタル血管肉腫症ニシテ、發病7年ニシテ死亡シタル例ヲ記載シ、佐藤²¹⁾ハ生後2年6箇月ノ男兒ニ發生シタル小圓形細胞肉腫症ヲ、中尾¹³⁾ハ生後7箇月ノ男兒ニ於ケル多形細胞性皮膚肉腫症ヲ夫々報告シタリ。

以上ノ大多數ニ於テ、何レモ死亡前期ニ内臟轉移ヲ來シタルヲ見ルナリ。

Sarcoma cutisニ關シ、Zürhelle²⁶⁾ハ皮膚肉腫症トハ皮膚ニ發生スル多發性肉腫ニシテ、限局性ニ來ラズシテ、然モ比較的同時ニ多數ノ腫瘍ヲ皮下ニ認ムルナリト述べ、内臟ヨリ皮膚轉移トシテ現ハルル内臟肉腫症ト嚴格ニ區別スベキヲ強調セリ。

本症例ニアリテモ、左側下腿後面ノ第1腫瘍ヲ始メトシ、爾餘ノ同性質ヲ有スル腫瘍ガ殆ンド同時期ニ多發性ニ皮下ニ發生シ、然モ此ガX光線並ビニ理學的症候ヨリ内臟肉腫症ノ皮膚轉移ニ非ザルハ明カナリ。普通臨床上、多ク使用セラルル Unna⁶⁾ノ4型ニ本症例ヲ當テハメル時、稍々ソノ第1型即チ Sarcoma multiplex cutaneum albumニ近キヲ思ハシム。

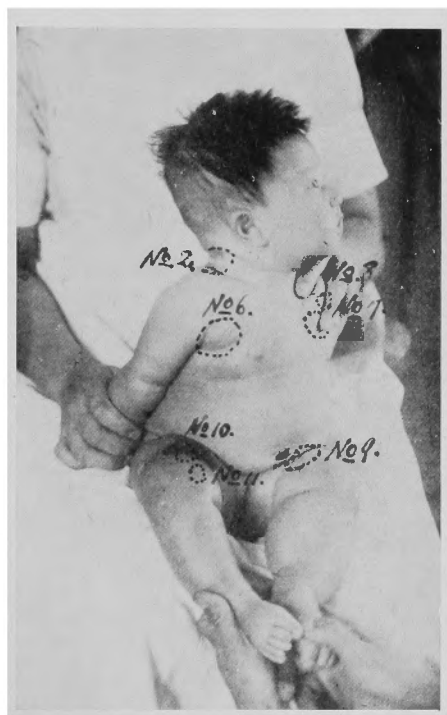
然レドモ、余等ヲシテ一見異様ナル感ヲ懷カシムルハ患者ノ取りシ臨床的經過ナリ。即チ、本症ノ腫瘍ガ分娩時既ニ赤色ヲ帶ビタル小硬結トシテ左側下腿後面ニ現ハレ、更ニ分娩後1週ニシテ右側頸部ニ同様ナル腫瘍發生シ、此ノ2腫瘍日ト共ニ増大セルモ、此ガタメ毫モ全身狀態ノ犯サルコトナク、生後4箇月ニシテ、全身皮下組織ニ同様ナル腫瘍9箇所ニ發生シ、生後6箇月ニシテ、急激ナル死ノ轉歸ヲ取りタル事實ニシテ、且ツ本腫瘍ガ組織學的ニ圓形細胞ヨリ成立セル事ヨリ考フルニ、寧ロ本症例ハ Perrin⁷⁾ノ謂フ Hydrodermale Formニ一致スルモノト云フヲ得ベシ。

1886年 Perrin⁷⁾ハ特殊ナル Sarcoma Cutisヲ記載シ、此ノ腫瘍ハ暗赤色又ハ稍々赤色ヲ呈スル多發性結節ニシテ、CutisトSubcutisトノ間ニ存在シ、組織學的ニ圓形細胞ヨリ成リ、生後4箇月乃至15箇月位ノ間、長期間ニ互リテ全身狀態犯サレズ、突然全身狀態惡化シ急死ヲ招カスルヲ以テ特徴トナスト云ヘリ。然ルニ、此ノ Hydrodermale Formヲ Sarcomatosis cutisニ算入スル事ニ關シテハ多クノ議論アリテ一定セズ。Paltauf²⁵⁾ハ此ヲ Lymphosarcomatosisトナシ、他ノ諸家ノ中ニモ此ノ中ニ算入スル者アリ。然レドモ、Jadasonハ此ヲ Sarcomatosis cutisノ一特異型ト見做シ、且ツ今ノ所殆ンド一般諸家ハ此ヲ Sarcomatosis cutisノ1種ナリト見做シ居ルノ狀ナリ。

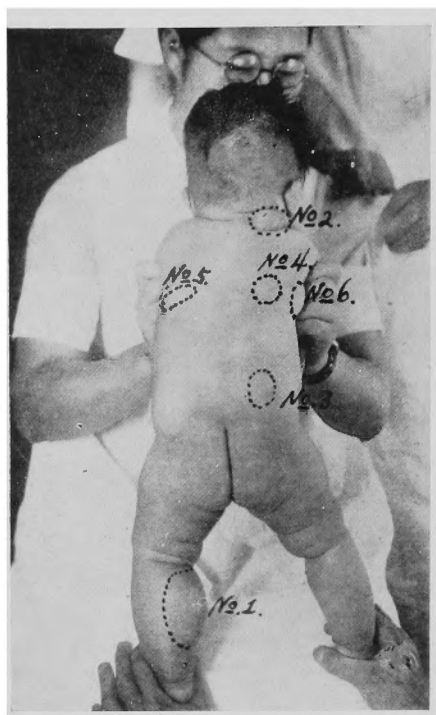
結 論

1. 余等ハ生後5箇月ノ乳女兒ニ發生セル先天性皮膚肉腫症ノ1例ヲ報告シタリ。
2. 分娩時既ニ發見セラレタル左側下腿後面ノ第1腫瘍並ビニ分娩後1週ニシテ發生シ來ル右側頸部ノ第2腫瘍ハ共ニ日ノ經ツニ從ヒ、漸次増大シ來レリ。生後4箇月ニシテ、同様ナル腫瘍ガ全身皮下ニ發生シ來リテ、生後6箇月日ニ急激ニ死ノ轉歸ヲ取りシモノニシテ、死ニ至ルマデ毫モ患者ノ全身狀態犯サレザリシモノナリ。
3. 本症例ハ11箇月肉腫ヨリ成リ、組織學的ニ皮下網狀組織ヨリ由來セルト思ハルル大圓形

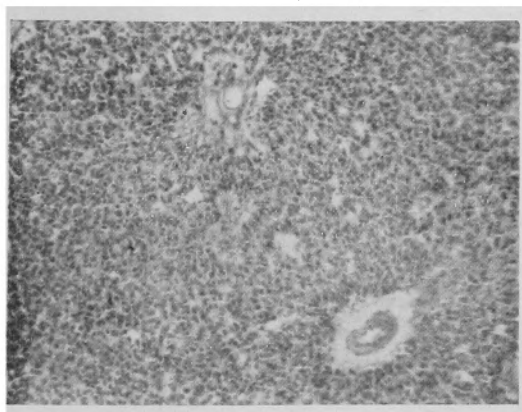
李, 松 山 論 文 附 圖



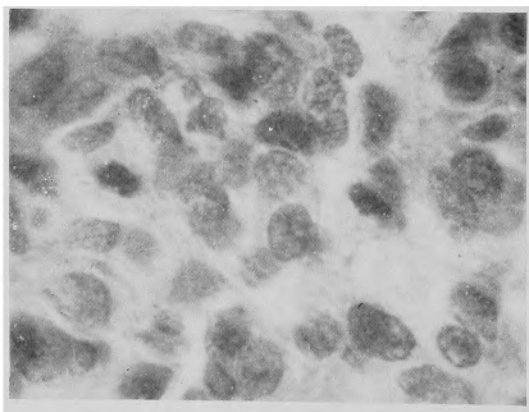
第 1 圖



第 2 圖



第 3 圖



第 4 圖

細胞肉腫ニシテ, 此ガ臨床的經過並ビニ腫瘍ノ性状ヨリシテ, Perrin ノ謂フ Hydrodermale Form ニ一致シタルモノナラン。

拙筆ニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜ハリシ尹日善教授並ビニ高秉幹教授ニ謹ミテ感謝ノ意ヲ表ス。

主要参考文献

- 1) Seckel, Zbl. f. allg. pathol., Bd. 15, S. 515.
- 2) E. Schlossmann, Frankfurt Z., Bd. 25, S. 489, 1921.
- 3) Neuhaus, Archiv f. Kinderheil., Bd. 21, S. 163.
- 4) Steffen, Geschwülste im Kindesalter. Stuttgart, 1905.
- 5) Jadason, Handbuch d. Haut u. Geschlechtskrankheiten.
- 6) Unna, Histologie d. Hautkrankheiten, 1914.
- 7) Perrin, Recopied from Jadason's text book.
- 8) Roulet, Virchow's Arch., Bd. 277, 1936.
- 9) Kaposi, Hautkrankheiten, 5te Auflage.
- 10) Dietrich, Verhandl. Deutsch. pathol. Gesellsch., 1910.
- 11) Charbon, Zeitschr. f. Chirurg., Bd. 13.
- 12) 栗山, 兒科雜誌, 第263號, 大正11年.
- 13) 中尾, 「グレンツゲビート」, 第12年, 第11號, 昭和13年.
- 14) 鋤柄, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第20卷, 第4號, 昭和4年.
- 15) 唐木, 癌, 第31卷, 第393頁, 昭和12年.
- 16) 石橋, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第32卷, 第5號.
- 17) 小島, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第24卷, 第1號, 大正13年.
- 18) 藤浪, 皮膚科紀要, 第25卷, 第4號, 大正14年.
- 19) 山田, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第26卷, 第11號, 昭和11年.
- 20) 村上, 癌, 第30卷, 第383頁, 昭和11年.
- 21) 佐藤, 乳兒學雜誌, 第16卷, 第3號.
- 22) 栗山, 宮崎, 兒科雜誌, 第391號, 昭和7年.
- 23) Spiegler, Arch. f. Dermat., Bd. 27, S. 163, 1894.
- 24) Paltauf, Ergebn. d. allg. pathol., Jg. 3, S. 625, 1896.
- 25) Hueck, Arch. klin. Chir., Bd. 139, S. 607, 1926.
- 26) Zürhelle, Recopied from Jadason's text book.

附 圖 說 明

第1圖 本症患者ノ前面寫眞

第2圖 本症患者ノ後面寫眞

第3圖 剔出腫瘍ノ組織像 (H.E. 複染色) Leitz. 60×

第4圖 肉腫細胞トツノ核分裂ノ像 (H.E. 複染色) Leitz. 680×